



平成 30 年 7 月 20 日
海 上 保 安 庁

西之島の噴火について（7月14日、18日観測）

○噴火の状況

7月14日午後1時頃、7月18日午後1時30分頃及び午後4時頃、当庁羽田航空基地所属航空機（LAJ501）により、西之島の火山活動の観測を実施しました。その結果、噴火が継続していることを確認しました。

海上保安庁では、引き続き、航行警報により付近航行船舶に注意を呼びかけています。

最新の観測結果は以下のとおりです。

- 火砕丘東側斜面に形成された新火口の噴火地点が赤熱（図1）し、小規模な爆発的噴火が発生している。それに伴い灰白色の噴煙が高さ200m程度まで放出されている。また、新火口から青紫色の火山ガスが連続的に放出（図2）されている。
- 新火口から島南岸へ溶岩流が7月13日と比べ400m程度延びており、海まで約200mの地点まで達している。（図3）
- 火砕丘中央火口内壁東側の噴気帯からの噴気活動が7月13日の噴火時と比べ活発な状況である。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「西之島の火山活動は再び活発な状態になっており、主として小規模な爆発的噴火を伴う溶岩の流出がしばらくの間継続するものと考えられる。」とのコメントが得られました。



図1 赤熱した噴火地点

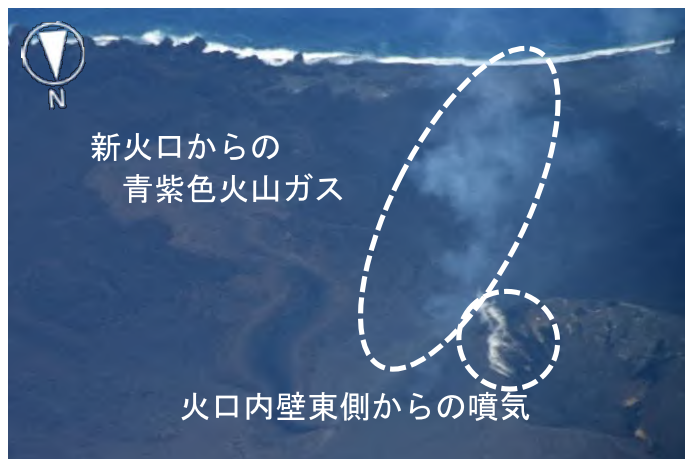


図2 火口付近の火山ガスと噴気



図3 島の南岸へ流下する溶岩流